夕刊
磐城新聞
五月九日日曜行
定價（郵稅共）月金六錢 五錢
廣告料金 一段二行 金六拾錢 金九拾錢
發行所 磐城新聞社
福島縣平市大字平字田町十六番地
電話 本局 平 一〇番
（日曜祭日翌日休刊）
東京振替 一〇八五六五番

天氣豫報

小名浜測候所報

今曉は北西の風晴

明日は南西の風晴

大社詣で（一）

——新線の山陰——

山田生

大阪で用を濟まして大社詣でを思ひ立つた山陰線は自分には處女線だ、旅行案内を按ずるには大阪から大社まで普通車十二時間急行八時間の行程である。可成億劫を感じたが思ひきつて朝七時半大阪を發つた沼津線は正に新緑耕地は一面菜の花真盛りで目の覺める心地だ途中城崎に下車する、大社との丁度中間であるた成人口に膾炙された温泉場であるが湯の量が少ないので宿屋には内湯の設備がなく共同風呂に行く仕組になつてゐることが丁度四國の道後渦泉に似て興趣を殺く事夥たしいその浴槽が又非常に深く何れも胸まで達する小供のためには盥が用意されてゐてそれを浴槽に浮べたり又は湯をくみとつてやつて入れてゐる奇異な習慣だ、湯は鹽欵泉で共同風呂を出ると少女がコップでそれを御茶代りに飲ましてくれる丁度飲み頃の鹽加減だこの附近トンネルが非常に多い。我々はトンネルといふものは平地を走つてゐて時々入るものと考へてゐたがこの邊は汽車はトンネルを走つてゐて時々明るいところに出るのだ京都から大社まで百三十餘つあるといふから物凄い然かし明るくなつた瞬間ちよい〳〵見られる日本海の水がとても綺麗なのは愉快だ

鳥取は人口五萬、池田侯三十二萬石の城下で久松山上の天主閣に名城の名殘りを止めてゐる。鳥取は温泉場であるといふ事は自分は知らなかつた。驛前數丁にして觀光ホテルその他の温泉宿が軒を並べてゐる中々設備もいゝ『因州因幡の鳥取でしかも大通の真中で娘が三人立ち話し』の唄と共に情緒纏綿靄然として湯の煙る温泉地である。鳥取には名所荒木又右衛門の墓がある、申すまでもなく又右衛門は天下周知の劍豪だ、伊賀越前仇討の後藤家に預けられたが岡山から當地に移封された池田侯に迎へられてこゝに來たのだといふ、それに一寸考へると見當違ひの當地墓にがある理だ、四十一才で發したといふが何んだかもつと年配の人に考へてゐた

祝島田忠夫氏の結婚

中川勝彦

○春さんか合歡の芽くみも大らかにのび行くころ
そともしを思ふ
○天さかるひなにはあれどみやこべゆとのことは
きのたよりめでたき
○よきたすけ身ちかにえつゝ君が歩むこれよりの
道齋ぎ祝ふ
○やがてかも龍のあきとの玉にまがふうましこあ
れてさかへよとこそ

松ケ岡公園即事

珠雲 小野勝平

晴日松岡寒務消
島聲花影何人嬌
東君狂駕到芳徇
紅夢今朝多昨朝

つぶやき

○

妓をやめて三とせになりぬ夏小袖 ひろこ

5月10日

△三國干渉、遼東還附（明治二八）△二葉亭四迷歿（同四二）△讀松第一中學で二千名中毒四十名死亡（昭和一一）

講談

隠密小天狗（61）

中川雨之氏作
近藤鐵氏畫

伊豆守は怖い

忠彌は、拍子抜けがした同時に、不滿であつた。『丸橋氏。伊豆のかみの處へ行くのはやめにして貰ひたい！』

と、正雪は開き直つて命令するやうト云つた。

『ウム』

と、忠彌は眼をみはつて。

『何故いけないのですか』

と反問した。

疑惑と不平と失望とで。彼の癇癪の虫がそろ〳〵動きかけて來た。

『伊豆のかみは智慧伊豆とさへ言はれて、幕府第一の敏腕家である。

先づ警戒するに如くは無しで、そんな人物には、餘りで、そんな人物には、餘り接近されぬ方が宜かろうと思ふ』

日頃から、正雪には敬服信頼してゐる忠彌であつたか、今日はそのまゝ服從する氣には、なれなかつた。

それに、得意を裏切られた不平も手傳つて。

『お言葉ですが、伊豆のかみとて神ではなし、そんなに恐れることは無いでせうそれに、拙者だとて、さう〳〵伊づのかみの口車に乘るやうな、おつちよこちよいでもないつもりだから——』

『いや丸橋氏——』

と、三郎兵衛が口を挾んだ

『何ですか』

と、いつて三郎兵衛を睨んだ忠彌の眼に、不平色があり〳〵動いて居た。

『お願が、やめよと云はれるのだ、伊づのかみの處へ行くことは、やはり、やめにされた方が宜からう』

年輩からいつても、人物からいつても、三郎兵衛は副頭領の格であつた。

殊に、忠彌に取つては、同志の中で、誰よりも、最も尊敬せねばならぬ同郷の先輩であつた。

忠彌が、母の故郷、出ての最上で貧しくして居る暮のを江戸へ呼戻せ、い寄羽まの本郷の麓場を開かせ羽くれたのも皆、三郎兵衛の骨折であつた。

だから、利かぬ氣の忠彌でも、三郎兵衛の言ふことなら、大概の場合、温和しく承知するのだつたが、しかし今日ばかりは、行きがかり上いつものやうには行かなかつた。

『も、折角來いと云ふもを、行かずに置いては、反つて變挺だと思ふ、此方さへ警戒してかゝれば伊づのかみ如何に智ある者でも、さう易々と引かゝりもすまいから』

『いや、さうではない、出かけて行くよりは、行かずに置く方が、遙かに安全だ兎角危險な處へは近かづかぬことさ』

忠彌は、默つて三郎兵衛の顏をきつと睨んで居たが次第に險惡な顏色に變つて來た。

『架田氏！』

唇みつくやうな語氣であつる。

『あゝ』

三郎兵衛は平氣であつた

『拙者が、それほど、輕率な人間と見ゐますか？』

『貴公は兎も角伊豆頭といふ男に油斷がならぬといふ話なのだ』

『すると、拙者と伊豆頭とでは、相撲にならぬ、とも云はれるか、

忠彌の態度は、次第に凌くなつて來た。

『丸橋氏、怒つてはいけないよ——本當のことを言ふと伊豆頭と貴公とでは』

『拙者と伊づ頭とでは、どうなのです？』

と詰め寄つた

ラヂオ（一）

高木生

私はその頃とうとうラヂオを一臺買つた。

『ラヂオも、もう娯樂品時代を通り越して重要な生活必需品ですよ。御家庭には一臺位は設備されても良いでせう』

ラヂオ屋は言ふのであつたが、尤も二臺なんて必要はないけれども、しかしこの品物がないからと言つて來別に不便を感じたことも一臺すゝ付けてあの文化

たところを見ると決して重要な生活必需品だとばかりは言ひ難いものであつた

あの商店の先から街頭へ向けてがあがあと明け放しに響くラヂオには腹立たしくさいあるものだが、たとへば小高い崖上の文化住宅あたりから流れて來る爽やかなラヂオの音には平和な幸福を聞かずにはゐないらと言つて御飯もはぶけるものぢやありませんから

ね』なんといふ下劣な女を妻に持つたものだと私は

の聲なけ た。

醸し出して見ることがあなかち徒爾ではあるまいと、零碎な貯蓄から大なる支出をすることに腹を決めた。

しかし女房はこの莫大なる支出に極力反對をしたのであつた。

『ラヂオなんて私達には身分不相應の贅澤品ですよ。ラヂオの流行歌を聞いたかものぢやありませんから

ものだと私は

内科 外科 一般 花柳病科
平市六丁目（橋際）
木村外科醫院
（入院隨意）
電話三〇九

獨特の珈琲 とWINE
紳士の喫茶店
グリルバツカス
サービス料一割（外拜辭）
平市銀座通りJEL七〇二

女店員募集
年齢十七才位より廿五才位まで
月給四拾圓以上支給漸次昇給
特過衣裳貸與食、
何の氣苦勞もなく朝に働ける固定給料です
真面目に働きたい方德實な生活を望まれる方は至急御出下さい
懇切に御指導致します

高 男女學生服特賣
高崎屋の洋服
新柄背廣
レンコート
注文並ニ既製品
高島屋
平市二丁目
電話三八六番

一、レンタン
一、豆炭
各種特價販賣
薪炭大暴騰ノ折カラ御家庭ノ經濟
燃料トシテ御勵メ致シマス。
電話三七番
平驛前
阿部石炭店

お醬油は……ヤマフル
醸造
山崎合名會社
福島縣平市
電話 本店 二七番 營業部 一〇番
味噌 醤油 たひら正宗 經節 食料品
明治生命磐城代理店 山崎與三郎

平市鎌田町
斷然一寶行よし
信用と品質と共に備つて
乳酸菌 低温殺菌
岡田牛乳

品質第一
電話二六八番
平牛乳舍
平市・九品寺前

名物 靈峰羊羹（名産佛煉）
姉妹品 磐城の御みやげ品
磐城耶馬溪……美山羊羹
同 七濱……のり羊羹
同 豐間……辨天羊羹
◎各種一本十錢
製造發賣元 平屋賣店
小川郷驛前

病室增築、手術室完備
産科 婦人科 醫學博士 五十嵐雄二
往診隨時
平市新川町 電話三六九番

視力保全運動
視力異狀に早期檢眼明快な、視力能率增進、正確な眼鏡により視力を保全致しませう。
各眼科御用
眼鏡專門 玉屋眼鏡店
平市二丁目

開業
内科、小兒科
鈴木醫院
平市銀冶町八番地
（吉田屋呉服店西隣）
電話（呼）一、一〇

日本石油株式會社特約店
ライオンガソリン石油株式會社直油特約店
福島縣平市一丁目（電話六十一番）
株式會社 關彰商店平支店
本店 茨城縣下館町 電話五五、三三九番
支店 茨城縣土浦町田宿 電話六五三番
茨城縣久慈町 電話一三七番
茨城縣多賀郡日本驛前 電話 大津 一四七番 平潟 五四番
福島縣四倉驛前 電話 四八番
福島縣小名浜町油槽所
海岸給油所 常磐線泉驛前
ガソリン給油所 大津港、平潟港、江名濱 土浦町新國道日本石油給油所 電話八二番四

産婦人科專門
平市南町五二
根本莊次郎
根本貞雄
電話三四番
（病室完備、入院隨時）

夜診
胃腸 性病
内科 胃腸病科 花柳病科 性病科 皮膚科
專門
松村醫院
（平市南町電一〇七番）
（見習看護婦募集）

月曜論壇

市の店主に望む

今秋十月から實施される本年三月二十五日法律第二十八號商店法は「市及主務大臣の指定する町村に於て物品販賣又は理容を營む店舗に適用」されるもので、一年を通じ業務繁忙季の六十日間及び顧客から疾病災害其他緊急の事由を提示された場合の外午後十時の閉店時刻を勵行せねばならぬ事は、之が支配を受ける當該營業者が實に千七百有餘の多數に上る平市としてあらゆる觀點から其の影響極めて大なるものがあり、之に因つて生ずる店主雇傭人の利害關係其他種々なる波紋の生ずべきを想慮し、夙め其間の調節及和策を樹立し盡くは市商工會議所創設提唱者等に取つて正に吃緊の準備であると思ふ。即ち法の實施に伴ふ營業時間の短縮なる消極的結果と之に惹まる從業員の休養時間延長なる積極的所産とは全く對蹠的の觀念に置かれ閉店時間乃至少年婦女子に對する休憩時間或は休日制の勵行は店主に不利益にして店員に幸福を齎す等、爲に醞釀さるる或種の空氣は假令相剋摩擦の表面化を見ぬ迄も、不知不識の裡により親密なるべき主從間の乖離を來し延いて其店の衰頽を結果する場合無きや、また此際決して神經過敏な想像と許り云はれぬ以上、少くとも將來同法の支配下に立つ市内各店主は須く該立法の趣旨に鑑み、多少の利益を犧牲にしても之を遵法し、斷じて主從間の反目嫉視を避くるに勗めねばならないと思ふ。今や國を擧て國民思想の善導と体位の向上とが叫ばれ居る秋に際し、寛宏を以て從業員を待つ該法の恪守こそは、前記國家當今の大方針に對する現實の顯證として之に副ふ所以であり、而も共榮依存の一家興隆も亦茲に淵源するを信じて疑はない。新興の商業都市を形成する平市の商人には圓滿なる常識と豐富なる涵養とを必要とする。商店法の實施を四ケ月後に控へ敢て一言する。

掘進は今月一ぱい

湯本溫泉復活近づく

確實を期して最深部へ

產業開發の嚆矢に古雅な自然を蝕まれつつある湯本を以前の溫柔鄉に還さんとする所謂湯計劃は既に數萬の巨費を投じた一昨年來の工事が最近愈よ終末期に入り、目下五十二度の高溫と闘ひつゝ當面の斷層突破に邁進しつつあるが高溫の爲甚しく作業能率を阻まれ其の進工極めて遲々たる爲最後の地點たる二三間近の掘進迄には少くとも今月一杯を要する見込みであり、そこに到達と同時に横に試鍾し茲に年來の希望たる熱湯を迸出せしむる豫定だが完成が見込みより遲れたのは湧泉の恒久を確保する爲め同町出身の地質學者木村六郎理學士等の指導により出來る乍け深部へ掘り下げる方針により工事を繼續したのに因るものであるとの

輝く日本國体

里見氏造詣を傾く

昨夜第三で講演會

日本國体の科學的長選擧を行ひ會務及び會計研究家里見岸雄氏を迎へて報告、會計審査あつた後職の講演會は既報の如く昨夜事に移り正午一旦休憩、午七時半から平第三小學校講後からは石渡大藏次官、島堂に開催、伊藤助役の開辯居日銀理事、第二師團吉川里見研究所々員)の「皇國日本の建設と國体科學」と題する講演後里見氏登壇「世界に輝く日本國体」なる演題の下

氏が既往三十有餘年の永きに亘つて研究を續けた我國体の科學的研究につき溢誠を傾けたその熱辯はしかも平易に聽く人々に深い感銘を與へた

生憎の雨に祟られて聽衆は程ではなかつたが智識階級者が比較的多く女性數名も見わた、正木磐女校長の挨拶後山崎青年團長聽衆に代つて謝辭を述べ萬歲三唱の際し、寛宏を以て從業員を待つ該法の恪守こそは、前記國家當今の大方針に對する現實の顯證として之に副ふ所以であり、而も共榮依存の一家興隆も亦茲に淵源するを信じて疑はない。新興の商業都市を形成する平市の商人には圓滿なる常識と豐富なる涵養とを必要とする。商店法の實施を四ケ月後に控へ敢て一言する。

閉ぢた里見氏らは同夜住吉屋店に一泊、今九日仙臺に向つた

奥羽銀行同盟定時總會

第五十二回奥羽銀行同盟會定時總會は昨八日仙臺市齋藤報恩會館開催中村頭取の挨拶に次で議

會長清水廣政　副會長星恒明　幹事門馬倉次郎(四倉)　賓川彌太郎(平)木村淳　大和田郡司　金成忠義(以上平市)評議員根本莊次郎外十名

大平翁祝筵

前好間村長大平新吉翁は過般の自治制發布五十周年記念日に際し、自治功勞者として郡町村長會より表彰されたのを機とし來る十五日午後一時から市内炭屋旅館に村内有志及び地方の知己を多數招ぎ、時節柄簡楚な喜宇の賀筵を張ると

密漁船捕はる

四倉町志津鹽田兼次郎所有幸福丸(一五トン船長鹽田幸太郎(五五)(外七名乘)は同縣漁船と共に炭夫五十嵐春雄(二二)は同縣七日午後一時頃から双葉郡坑夫佐竹太吾(二〇)—假名に組)は久の濱の漁船と共に密漁中女があると噂されて憤慨、縣漁業監視船神島丸に拿捕去る四日豊同村蛇ケ淵で佐

新緑の車窓から

(第五信)　磐女修學旅行團

五時起床猿澤池畔の宿舍に第三日の夜をすごし旅行の第四日を無事にむかへることができた、幸ひ曇天なしから雨からはまぬかれて寒燈龍に驚ろく、うね〜とが降ずる暑からず見學するにつづく參道は樹木のかげにて清水寺へ到り青葉の下で昼飯をすまし、三十三間堂大佛殿を拜して京都の見學を終りました今夜限りで京都ともおさらばです。これからゆつくり、お土產を買ひながら町を見物して參りませう。

亂筆ながら右御知らせまで

(遠藤靜枝)

凄い坑夫の喧嘩

ツルハシで滅多打ち

炭礦街を血で彩る

初夏の炭礦街に血腥い事件——

竹がムッとなり同僚の雜役夫小林正吉(三二)佐利一吾(九)—假名、菅野貞美(三二)高橋一二三(二三)の四名で前記蛇ケ淵で仕返した、ところが翌五日午前三時頃佐竹ら五人が共同區呂から出てくるところを五十嵐は同僚高山木世(九)—假名と共に待ち伏せ、ツルハシとメリケンサックで其先に出て來た小林正吉(三二)宮城縣岩沼町生れ—に襲かかり頭部、左腕二ヶ所左脇腹等に全治一ケ月の重傷を負はせたこと平署の知るところとなり直に檢擧され、當日の來る十五日は

同日午後一時から縣社子鍬倉での祈願祭二時第一校の壯行會に臨み同夜一泊翌十一日午後零時四十分平發で内原訓練所へ——

されたあす義勇軍勢揃ひ

滿蒙開拓青少年義勇軍一行百七十名は愈よ明十日平市役所前へ勢揃ひ、

五十嵐、高山の兩名は殺人未遂、佐竹ら五名は暴力行爲で近く送檢される

寄附　市内北目町東北化學工業會社代表取締役小谷野衛政氏は土木費指定で市へ金百圓を寄附

献金

國防婦人會第四分會では第一線の同村出身矢吹與平君より同分會活動たがこれを恤血費として市役所に寄託

訴願の辯明

(あす參事會へ)

市内大町中野勇吉氏提出の願に對する辯明を決定する戸數割異議問題は何れも東京行政裁判に持ち出されぬるが昨年度後期分のも市で却下されて縣に訴願したので近く縣參事會に附議される、これに對して平市では明十日の參事會にかけ訴

醫師會總會

新役員決る

石城醫師會總會は八日午後一時から常陽銀行平支店樓上に開き役員を左の如く改

激戰を豫想し乍ら進發命令を待つ

三浦富美男君(信通)

市内田町出身

二月十一日建國祭當日、皆様の寄せ書きを嬉しく拜見致しました。

其後御無沙汰お許し下さ萬歲を三唱し、大元帥陛下の入城、東門行軍の途中で、宮城を拜遥し、大元帥陛下の入城を拜遥し、大元帥陛下の城目がけて迫擊砲を打ち込んだり輕機關銃(チエッコ式又は佛蘭西式)を打ち込んだりするんですから仲々安心して寢て居る暇にも戰は除州とか云つて蔣觀分ゆかず、三度に一度は○砲を打つてやると逃げて行きます、弱いやうで強い、強いやうで弱い、支那の兵隊達です、此頃では大分馴れて參り仲々面白う御座います。

昨日(四月十六日)からは第○○○